

平成19年度通常総会議事録

自平成19年4月1日
至平成20年3月31日

東京都港区赤坂7丁目5-56
電話 03-3582-7744

社団法人 オーアーゲー・ドイツ東洋文化研究協会

通常総会議事録

日時：2008年5月21日

場所：オーアーゲー・ハウス（ドイツ文化会館）

出席者：正会員数146名中、23名が出席、68名が委任状を提出した。

1 開会

会長シェーパース氏は、午後6時33分開会を宣し、正会員の過半数が出席、もしくは、委任状により代理されているため、本総会は成立したことを宣した。

シュタインベルク氏が、議題「その他」の内容に関して質問したのに対して、定款の補則によれば総会の議題は理事会が決めることになっており、会員から提案があった場合の取り決めがないため、その他の項目に入れたと説明した。

2 各理事が、昨年度の担当業務に関して報告をした。

催し物委員会のデュッペル・タカヤマ氏は、昨年度の催し物への協力に感謝の意を表した。昨年度は82の催し物があり、これまでで最大である。今後、会員が何に興味を持つのか更に調査し、また、会員側からも積極的に提案をしてくれるよう依頼した。

シュタインベルク氏は、創立記念の会のあり方について、希望を述べた。

それに続いて、数人が意見を述べ、デュッペル・タカヤマ氏が催し物委員会として節目の記念の年のみホールで大きな催しをし、それ以外の年の創立記念の会は大掛かりにしないで、講演会などを行うことを考えていると説明した。

神戸担当の理事シャウマン氏は、神戸在住ドイツ人の数が減少していること、また、建物が老朽化し、修理が必要な箇所があること、OAG神戸が兵庫県の土砂災害警戒区域内にあることを報告した。後者に関しては、OAGの加入している保険で宿泊者に対してどれほど保障ができるかを調査することとなった。

建物管理担当の理事モール氏は、昨年度は排水管、空調設備など修理の多い年であったと話した。また、ドイツ政府の依頼で耐震調査を行い、問題ないことが判明した。アスベストに関しても、空気中には浮遊しておらず、問題はないと説明した。

財務担当理事シェーフアー氏は、昨年度は東京も神戸も建物の修理が多かったため、比較的厳しい状況であったと説明した。一昨年度の黒字は為替差益から生じたものであり、今後、支出削減に一層努めていかななくてはならないと述べた。決算に関して、監事からは特に指摘もなく、承認されたことを報告した。

OAG神戸にかかる経費に関するメンクハウス氏の質問に対し、シェーフアー氏は、これから建物の修理費用の増加が予想されるので、近い将来OAG神戸のあり方を見直す必要が生じるであろうと述べた。

編集委員会に関して、サーラ氏は、昨年度出版した書籍数は少なかったが、委員会の活動は非常に活発で、多くの原稿を審査したことを報告した。クラインシュミット氏の不平等条約に関する原稿は、短縮版は文庫本として出版し、オリジナル原稿は多くの学術的脚注をつけてインターネットで公開する予定である。このように将来的には一般向けの読みやすい原稿は文庫本として、学術的な原稿はインターネットでと出版形態を二分化する方向で進めていく。「明治初期の日本-ドイツ人外交官アイゼンデッヒャー公使の写真帖より」の日独語での出版はドイツ大使館、東芝の協力を得て可能となったが、同様に日独修好150周年に向け、東京大学出版会との約束に基づき「日独関係史」のドイツ語版出版がすでに予定されている。日本語版出版に際し、100万円の助成金をOAG

が支払うかわりにドイツ語版の著作権を取得した。シュタインベルク氏は、こうした出版を非常に喜ばしいものとしながらも、やはり翻訳ではなく、ドイツ語で書かれた原稿の出版を強く希望した。

シェーパース氏は、公益法人制度改革に伴い、これまでは文科省管轄下の社団法人であったが、新制度の公益法人に移行することをOAGが望んでいること、また、2月の文科省の検査の際、改善すべき点をいくつか指摘されたことを報告した。

シェーパース氏は、OAGのホームページが更に見やすく、内容の充実したものに変わりつつあることを報告した。近い将来、発足当時からの出版物やOAGの歴史にとり重要な文献類がインターネットを通して誰でも見るようになる。

シェーパース氏は、レストラン「葡萄屋」の経営が難しいため、将来的にレストランをやめ、OAGの事務所、図書室を1階に移し、現在の事務所部分を貸し出す案があることを紹介した。経済的な面や、OAGの活動に占めるレストランの役割などについてさまざまな意見が出され、できるだけレストランを維持するという方向が決まった。

3 2007年度の会計報告が賛成83、反対票なし、棄権8で承認された。

4 今年度の予算が賛成82、反対票なし、棄権9で承認された。

5 新ドイツ会館建設に関し、シェーパース氏は、新任公使プリンツ氏との会見を報告した。適切な土地を確保できるかが最も重要な点である。OAGはこのプロジェクトに対しての興味を示しているが、ドイツ政府の意向が明確になった時点で、OAGの対応について臨時総会を開くなどして検討する。

6 シェーファー氏は、監事カシュープ氏が日本を離れたため、後任として、ヤン・カイザー氏を提案した。彼は、就任を承諾していることを話し、反対票、棄権なしで認められた。

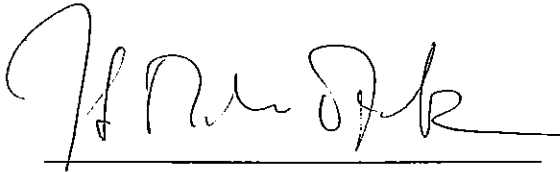
総会の議題に関して意見交換がなされた。会員から議題の提案がある場合は、余裕を持って事務所宛に連絡するよう、来年から会員に案内することとなった。

シェーパース氏は、参加者に感謝を述べ、午後9時19分閉会した。

2008年6月18日

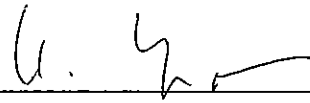
マイケ・ロエダ

(理事)



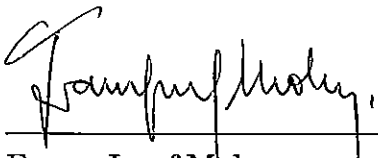
Josef Bohaczek
ヨーゼフ ボハチェク

(理事)



Mechthild Duppel-Takayama
メヒトヒルト デュッペル=タカヤマ

(理事)



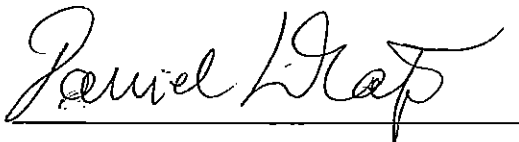
Franz-Josef Mohr
フランツ ヨーゼフ モール

(理事)



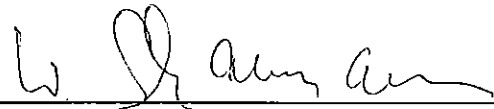
Prof. Dr. Sven Saaler
スヴェン ザーラー

(理事)



Daniel Schäfer
ダニエル シェーファー

(理事)



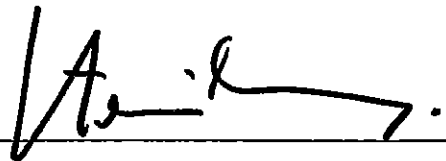
Prof. Dr. Werner Schaumann
ヴェルナー シャウマン

(理事)



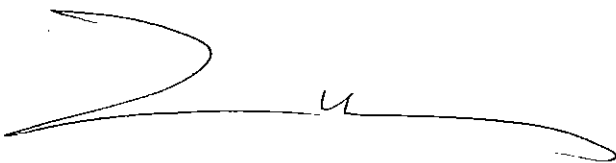
Prof. Dr. Gerhard Schepers
ゲアハート シェーパース

(出席者代表)



Prof. Heinz Steinberg

(出席者代表)



HEINRICH MENKAUTS